

## 登山学校レポート（第4回講習）脊梁一泊縦走

日程：11月12日（金）～13日（土） 山域：脊梁山系（西内谷～水上越～白鳥山周回）

参加者 受講生 8名（アゼリア参加者 yuka\*）・

講師 8名

今回の講習を通して、できたこと、できなかったこと、自身にとっての今後の課題などについて、以下の観点を参考にレポート作成してください。

- ・体力（歩荷力や歩き方）
- ・読図・ルートファインディング
- ・装備（予期せぬビバークとなった場合に備えて、どのような装備が必要と感じたか？）
- ・チームワーク（リーダー・サブリーダーの役割とは何か？またその役割が果たせていたか？チームとしての行動ができていたか？メンバーに対する見守り等）

### 1. 体力

今回の縦走は前回の金山で学んだことを生かし軽量化に努めました。やはり重さは体力を消耗することがわかっているので少しでも軽くなるように。受講生に食材を任せられていたこともあり、zoomで話し合いをして準備することができたのは全体の軽量化にもなったのではないかと思います。そのため前回より随分と体力の消耗を減らすことができたとは思っていますが、一日目はボルダリングの様な枯れ沢が続いていてきつく、途中ビバークをしようかとの声も上がっていたので皆よく頑張って歩いたと思います。

### 2. 読図・ルートファインディング

全体的に前回と違って登山道が多く分かりやすくはあったものの、倒木をよじ登ったりする箇所もあり、枯れ沢は予定していた道ではなく沢の上に道があったのでは？と思いましたが、きっと沢の中を進んだ方が安全だったのでしょう。下山もよく分からない林道があったり、傾斜の凄い箇所ではコンパスが示す方向に下りることができずに巻いたり、最後は講師も受講生もバラバラで急斜面を下って下りました。どの道が正解なんだろう・・・本当に読図は難しいです。

### 3. 装備

標準装備であるヘッドライト、レインウェア、ツェルト。いつも持っている物ではあるが・・・。縦走途中A班を待つ間待機、そこは風が吹き抜けていて温まっていた身体もすぐに体温を奪われ寒さを感じていた。そこに講師がツェルトを取り出して被りだしたので私達受講生も入れてもらおうと温かかった。知ってはいても経験していないととっさの使い方はできないんだと身をもって体験することが出来ました。

### 4. チームワーク

残念ながら私達B班は全員でゴールすることが出来ませんでした。が、（メンバーの一人が）1日目の枯れ沢で足を負傷したのを気遣い、リーダーに呼びかけたり、ゆっくりとの声かけを行ったりすることは出来たと思います。が、二日目の終盤になると進むべ

き道も分からなくなり、急斜面でそれぞれが必死になりバラバラに下山することになりました。そんな時こそ立ち止まり、この先どう進んでいくのか話し合ったうえで安全に下山しなくてはと思います。この縦走が貴重な経験になり、もしビバークするようなことになっても慌てず冷静に判断して、自分自身や仲間の身を守ることに繋がっていくと思います。そして、今後の登山がもっと楽しく安全になると思います。 記 yuka\*